



# 今井小だより

第12号  
令和5年  
2月28日  
青梅市立今井小学校



今井小HP

## 「さよなら」の数だけ愛を知る

校長 神尾 健彦

いよいよ今年度のまとめとなる3月を迎えます。子供たちの成長には、一人一人の頑張りと努力が、そして、それを支えてくださったたくさんの人の励ましがあったことと思います。それぞれの目標をもって、様々な取り組みをし、つらいことも乗り越えられる力を付けてきました。思うようにできなかったことも乗り切ってきました。スムーズにいくことばかりでは大きな成長はありません。子供たちの健気な頑張り。悔しい気持ちを克服する姿。無駄だったことなんて、一つもありません。自分を成長させてくれた、日々の出来事や日々出会った人々にも、感謝です。是非、ご家庭でも、卒業や進級を前に1年間を振り返り、子供の成長と一緒に喜んでください。また、子供たちには、残りの一日一日を大切にして、クラスの友だちや先生と、多くの思い出をつくってほしいと思います。

そして、3月はお別れの月でもあります。映画監督の故・大林宣彦さんが、映画の中でいつも使う別れの言葉は、「ありがとう」「ごめんなさい」「さようなら」だそうです。「ありがとう」とは、二人を出会わせてくれた運命と、ぼくに会ってくれたあなたへの感謝。「ごめんなさい」はそのあなたにもらったもの大きさに対して、ぼくがあげることのできなかった多くの事についての申し訳なさ。そして最後には、礼儀正しく「さようなら」。人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ愛を知るのだそうです。

この1年間、教室や校庭では、毎日のように「わかった」「できた」とともに「まだわからない」「もう少し」が響き渡りました。行事や遊びの中では、時にはケンカやトラブルもありましたが、たくさんの「ありがとう」とともに「ごめんなさい」が聞こえてきました。私たちはとにかく成功体験に目が行きがちですが、失敗の中から多くのことを学ぶこともあります。学校では、価値観や性格が違う子供たちと共に活動します。そのような環境や集団での生活を通し、子供たちは、「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなったと思います。さて、3月は、たくさんの「さようなら」もあります。子供たちは、その数だけの愛を知ることができるでしょうか。

23日には、41名の6年生が卒業します。卒業生と保護者の皆様に心からお祝い申し上げるとともに、子供たちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々へ厚くお礼申し上げます。また、他の学年の子供たちも1年間の総まとめに取り組んでおります。進学・進級への大切な残りの日々、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

## ～大切な「さようなら」ができるように～

今年度で今井小を去られる先生を修了式の日にご子供たちに知らせます。そこでは口頭でのお知らせのみで、詳細は新年度の学校だより4月号にて配布いたします。離任式はこれまでと同じように新年度に入ってから実施いたします。